

# 大手企業内で開催

## 中小企業業の展示会

中小企業が持てる力を発揮し、活躍するためには、自助努力だけでは限界がある。他者の手助けも必要だ。そこで、岐阜県内で中小企業の事業運営をサポートする事例を紹介する。

岐阜県産業経済振興センター(岐阜市、毛利俊夫理事長、058・277・1090)は、県内企業を大手企業に紹介する「新工法・新技術展示会」を毎年開いている。県内企業がまとまって大手企業に向いて、新規取引を目指す取り組みだ。今年7月13日にアインシオンで開いた。今回は県内企業24社が

参加。業種は機械加工、金型、樹脂、電子などさまさま。アインシオン精機や同社グループ企業の社員ら約500人が各ブースを訪れた。参加企業からは「普段会えない現場の

なる大手企業は未定だが、今年は秋にも開催する予定だ。モノづくり企業が多い岐阜県では、07年問題は喫緊の課題だ。いかに熟練者の技術・技能を失わ

事業名は「技術情報デジタル化モデル事業」。公募事業で、キャリア技研(名古屋市中村区)が受託し、進めた。同社では、熟練者の技術・技能をパソコン上で

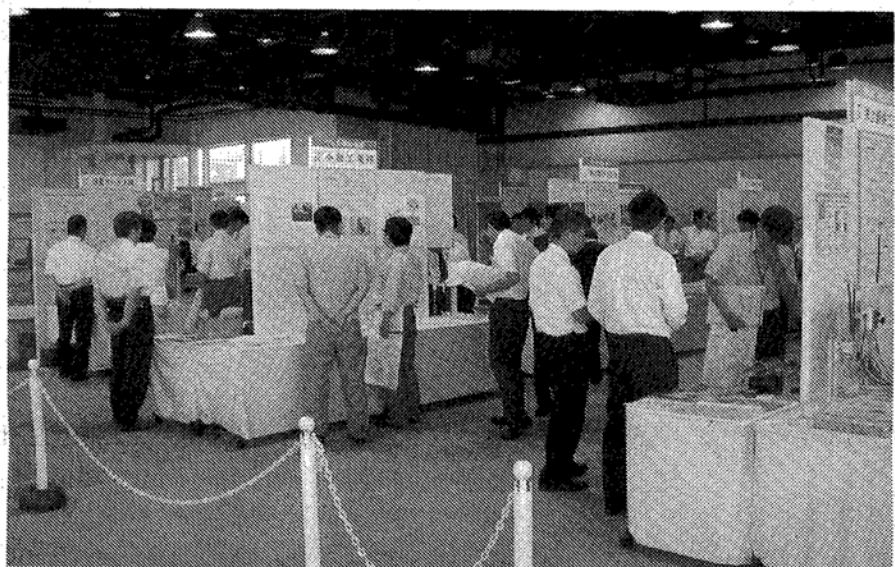
### 07年問題に向けた取り組みを推進

#### 技術者の人々と活発な意見交換ができ、大変有意義だった」との声が上がっていた。

同様の展示会は過去8回行っており、実際に新規取引につながった例もある。なお、開催場所と

ずに伝承していくかが問われている。そこで県では、暗黙知の領域と言われる熟練者の技術・技能を、デジタル情報という形式知に変え、技術・技能伝承につながるモデル事業を行った。

見える形にデータベース化し、いつでも、どこでも、誰でも効率的に技術・技能を学べるシステム構築を目指した。熟練者の作業風景をデジタルビデオで撮影し、その画像を作業工程ごとに分



中小企業が多数出展

割、整理してフローチャート式に表現した。ソフトウェアは、トヨタケイラム(名古屋市中区)の「指南車」を使用した。岐阜県内の金型、精密機器、溶接分野など8業種8社を対象にシステム

の検証を行ったところ、一定の評価を得られたという。キャリア技研はこの成果をもとに、技術・技能伝承を支援する事業を始めた。07年問題の対応に悩む企業の注目が集まっている。